

文責：北ブロックモデラートル トマス頭島光

- (1) 国際交流の場における相互の文化的理解をすすめ、言語や習慣の違いを互いに理解しあい、その多様性を尊重しながら、よりいあり方を探る。たとえば、ミサは基本、日本語で行い、朗読奉仕、奉納行列、主の祈り等では多言語で行う。勿論、英語ミサ、越語ミサ、タガログ語ミサ等、できうる限り実践していく。
- (2) 青少年の人材育成は、喫緊の加田である。また教会に來られていない信徒の掘り起こしも強く求められる。特にフィリピーナ家族の子どもたちをはじめ、若い世代(30代から40代)の家庭で、未信者の子どもがいる既婚者家族への司牧的アプローチは重要課題である。
- (3) 実行委員会の設置は、丹後教会の幾つかの礼拝堂の解体とその跡地利用における新規の事業展開の可能性かつ重要文化財指定を受けた宮津洗者聖ヨハネ天主堂の耐震強化及び改修工事等に関する特別委員会をそれぞれ設置。次年度中により具体的な方向へと舵を切ることが求められている。
- (4) インターネット環境の整備は北ブロック全体の課題としてある。既にインターネット環境が配備済の東西舞鶴、福知山、宮津、網野は更に Wifi 環境を整えたい。今後の会議等は ZOOM やラインを使った連絡、また facebook を通してのライブ発信等の広報活動に加え、HP 公開による宣伝及び情報の共有は一般社会との接点、交流という意味からもツールとして大いに利用すべきである。
- (5) 事務所機能を持った宣教司牧活動の拠点化をすすめたい。丹後教会では宮津がその所在地となっているが、その事務所化は必須の課題。また解体が予定されている丹後大宮、峰山の両礼拝堂の跡地の有効利用の方向性を探りつつ、新たな拠点化を図ること。
- (6) 京都教区が示すシノドス的活動として<道と宿>をテーマに協働宣教司牧を展開すること。具体的に目指す方向は<出向く>ことです。即ち、地域社会のニーズに応えるために貢献できることは何かを具体的に探り、寄与できる教会共同体となること。各地区で具体的なアイデア、工夫、意見を出し合い、フリーマーケットや音楽会（教会ピアノ）等を通して、地域の人々との交流、出会い、そして連携していくことが考えられる。

以上